2022.7.10

ＮＰＯフォーラム だより №100

祝

ＮＰＯ法人安房文化遺産フォーラム（共同代表：愛沢伸雄, 池田恵美子）

〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1　TEL&FAX：0470-22-8271

Eメール awabunka.npo@gmail.com　公式サイト https://awa-ecom.jp/bunka-isan/

会員・寄付募集中！ 年会費＝正会員 A:10,000 円（総会議決権あり）・準会員 B:2,000 円・法人 10,000 円

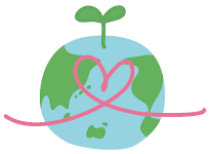
（ゆうちょ銀行口座：００２６０-1-９７３０７　名義 ＮＰＯ法人安房文化遺産フォーラム）

2004 年に NPO 法人を発足し、翌 05 年 7 月に創刊した会報「NPO フォーラムだより」は、今回 100 号となりました。息長く続けられたのも、会員の皆様のおかげと感謝しております。また新型コロナウイルスの感染者数がやや下火になり、ガイド活動も復活の兆しを見せています。この機に、67 回続いていた「知恵袋講座」を 6 年ぶりに再開することしました。これは、知識や経験豊富な NPO メンバーが講師となって、楽しく学び語り合う茶話会です。開催日は、ガイド予約が入りにくい赤山地下壕の休壕日（点検）＝第 3 火曜日＝を基本としますが、平日で参加しにくい会員には、なるべく限定公開 YouTube などで後日視聴できるようご希望に応えたいと思います。なお 6 月 21 日の活動報告交流会を第 68 回知恵袋講座として、次回は第 69 回、8 月は休会とします。準備の都合上、出席はあらかじめご連絡いただけると助かります。

TEL：池田 090-6479-3498・粕谷 090-3218-3479

＊好評につき 5 年ぶりに復活！

◆ 第 69 回 知恵袋講座



語り手：上田敦子さん

テーマ「紛争が起きても戦争にしない

～ AALA 活動と ASEAN ツアーから学ぶ」

日時：2022 年 7 月 19 日（火）13:30～15:30

会場：菜の花ホール ２Ｆ（館山市北条 1735）

参加費（資料,茶菓子代）：会員 200 円、非会員 500 円

【プロフィール】
NPO 法人安房文化遺産フォーラム理事。千葉県 AALA 事務局長。 AALA とは「アジア･アフリカ･ラテンアメリカ連帯委員会」の略称で、核兵器や軍事同盟をなくし、平和のためにすべての国が平等に参加できるよう、非同盟諸国と連帯し運動を進める団体。2014 年に ASEAN（東南アジア諸国連合）スタディツアーに参加。岐阜県生まれ、元小学校教員。2015 年に鎌ケ谷から館山へ移住。

旧 安房南高校 木造校舎 草刈り･掃除

【安房高等女学校木造校舎を愛する会】

７月９日（土）･30 日（土）8:30～10:00

※雨天時は翌日（日）に順延　（館山市北条 611）

NPOが千葉県の委託により開催する一般公開（見学会）は、台風･コロナ禍で3年間中止でしたが、今秋の再開を目ざし、文化財校舎の環境整備をおこないます。刈払機のほか、草刈鎌や軽トラの持ち込みも大歓迎！ご協力をお願いいたします。

安房南高校 旧第一校舎 （千葉県指定有形文化財）

当面のツアーガイドスケジュール

※ サポートスタッフも募集中！ 詳しくは事務局まで。

7 月 14 日（木）10:30～11:20 都庁退連合 27 名：赤山
7 月 14 日（木）10:30～16:30 ABC 企画委員会 17 名
座学,赤山,掩体壕,震洋基地,かにた村
8 月 4 日（木）11:00～12:20 生活クラブ 20 名：座学,赤山
8 月 7 日（日）9:30～12:00 赤山地下壕ガイドサービス
9 月 2 日（金）8:30～16:30 帝京大学+浜松学院大学 20 名
座学,赤山,安房南,大巌院,布良崎神社
9 月 4 日（日）9:30～12:00 赤山地下壕ガイドサービス

第 18 回 安房･平和のための美術展

ART FOR THE EARTH

８月 20 日（土）～８月 28 日（日）

会場：とみうら枇杷倶楽部ギャラリー

（南房総市富浦町青木 123-1）

安房ゆかりの美術家たちが、「平和のためになにができるだろう」と 2005 年に始め、NPOも協力してきました。 出品して参加、観て参加、チャリティーで参加する美術展です。ウガンダ支援交流の活動記録も展示します。

REPORT＊安房西高校 JRC 部のウガンダ支援バザー

ウガンダではコロナ禍の休校が2年にわたり、世界で最も長く影響を受けています。2013 年から活動のバトンを引き継ぎ 10 年目となる安房西高校 JRC（日本赤十字）部は、6 月25・26日に校内文化祭でウガンダ支援バザーを実施しました。ウガンダを紹介する展示をはじめ、 健康にやさしい無農薬のウガンダコーヒーや、支援先の NGO ウガンダ意識向上協会（CUFI）で作られたハンドメイドのエプロンやバッグなどを販売しました。

＜予告＞ 10月には、安房地域の喫茶店や販売店など約25店舗の連携により、ウガンダコーヒー月間キャンペーンを展開します。協賛店舗を募集中！

REPORT＊安房文化遺産フォーラムの活動報告交流会

6月21日、会場に 32 名＋オンライン参加5名で開催しました。コロナ禍でなかなか会えなかったメンバーが一堂に会し、NPO 活動への理解を深め、久しぶりの方も初対面の方も和気あいあいと親睦を図りました。

＜報告内容＞

・韓国 TV に取材されたガイド風景の紹介番組
「屋根のない博物館～館山まるごと博物館の取り組み」
https://awa-ecom.jp/bunka-isan/?s=OBS

・房総アワビ移民の古文書調査
https://awa-ecom.jp/awabi/839/

・台風～コロナ禍の活動状況
https://www.youtube.com/watch?v=BxplR5WTlJ4&t=134s

REPORT＊戦争遺跡の保存状況 ～「128 高地」地下壕

民有地（福祉施設）内に残るA級（近代史を理解する上で重要な史跡）の戦跡であり、当 NPO が特別に許可を得て、壕内の照明をつけるなどの管理や、平和学習団体のガイドをしています。2018 年秋、壕入口の上部壁面が崩壊し、土砂の除去・整備をおこないました。 2019 年の巨大台風では、施設全体が大きな被害に遭ったものの、戦跡は無事でした。しかし、その後2年にわたるコロナ禍では、ガイド活動がほぼ皆無となりました。

最近になり感染者数の減少に伴い、ガイドに備えて壕内の視察確認をしたところ、内部に小動物の糞が散見されました。旧海軍砲台山の跡地を払い下げた丘陵の森であり、当該施設や赤山地下壕周辺にもイノシシが出没するようになっています。人間の出入りが少ない間に、イノシシが棲みついたのであれば、壕内での遭遇や衛生面などの危険を配慮し、しばらくは見学を控えたいと考えています。

【参考】 戦後 75 年に、東京新聞が特集記事を掲載し、紹介動画あります。 ⇒ **右頁の QR で YouTube をご覧ください。**

※東京新聞 WEB からも見られます。 https://www.tokyo-np.co.jp/article/45555

地下壕に眠れる龍

千葉・館山　本土決戦の最前線

太平洋戦争末期、戦況悪化の中で「本土決戦」に備え、沿岸部を中心に武装化が進んだ。その最前線にあった千葉県館山市に、荘厳な龍のレリーフが彫られた地下壕が残っている。戦後75年を経て、閉じ込められた「洞窟の龍」は今、何を語りかけているのだろうか。

懐中電灯を頼りに、ぬかるんだ地面を長靴で一歩ずつ前に進む。道は狭く曲がりくねっている。掘りかけの状態だったり、セメントの袋が積み上げられたままの場所もある。

入り口から三十㍍ほど。壕の最も奥に突き当たった。天井を見上げると、現れたのは約三㍍四方の龍のレリーフ。射抜くような鋭い目と、荒々しい背中の文様が今にも襲い掛かってきそう。

龍の口元からは、一本だけ電気コードのようなひも状のものが五十㌢ほどだらりと垂れ下がっている。赤や黒色の銅線が束ねられ、龍の髭を形作っている。七十五年前の3D表現？　どこかユーモアさえ感じる。

「すごい緻密さですよね。『洞窟の龍』は今もずっとここで生きているんです」。地元の戦跡や文化遺跡の保存活動をしているNPO法人安房文化遺産フォーラム（事務局館山市）事務局長の池田恵美子さん（五九）が感嘆する。

水中特攻兵器の「海龍」「伏龍」、木製グライダー型の特別攻撃機「神龍」など海軍の兵器には「龍」が使われたものも多い。池田さんは言う。「海軍の象徴でもあった龍を、なぜここに彫ったのか。余裕があった証拠か、勝つために必死だったのか。証言が一切出ていないのです」

128高地の地下壕の天井にある龍のレリーフ。手前のひげはコンクリートを吹き付けた銅線で立体的に作られている＝いずれも千葉県館山市で

龍のレリーフがある地下壕の部屋

壕の内部の動画はこちらから

館山は当時、戦闘機パイロットを養成する「館山海軍航空隊」（館空）や、整備員を養成する「洲ノ埼海軍航空隊」（洲ノ空）が配備された主要な軍都の一つ。この地下壕は、洲ノ空の一角にあり、洲ノ空部隊が造ったと伝わる。館空近くにある赤山地下壕は市指定史跡に登録されているが、この壕に名前はない。標高一二八㍍にあることから本土決戦の作戦図に「一二八高地」と記されているだけだ。

壕の中には、「昭和十九年十二月竣工　戦闘指揮所」の石額が掲げられた部屋もあった。「作戦室」と書かれた部屋や天皇の写真を飾ったとみられるくぼみも残っていた。

戦史叢書などによると、大本営は四四年七月、「本土沿岸築城実施要綱」を示し、沿岸砲台や抵抗拠点となる陣地の建設を命じている。だが、資材不足で建設できない地域も多かった。

一方、房総半島南部は東京湾要塞の要。明治大の山田朗教授（日本近現代軍事史）は、「館山は戦略的に、早い段階から地下壕が造られていた可能性がある。龍のレリーフもその一つで、装飾に力を注ぐことができたのではないか」とみる。

制作経緯不明「歴史知る機会に」

「洞窟の龍」の謎に迫ろうと、防衛省防衛研究所の史料閲覧室や国会図書館の資料を探したが、決定的な資料は見つからなかった。

壕にはもっと多くの部屋があったようだが、地下水がたまったり崩落して、今は入り口近くしか進めない。老朽化も激しいが、現場に立つと当時の空気を感じることができる。池田さんは「龍をきっかけに、戦争を考える機会にしてもらえたら」と呼び掛ける。

◇　◇

壕は私有地で立ち入り禁止だが安房文化遺産フォーラムでは、「平和学習」が目的の団体向けにツアーを受け付けている。問い合わせは事務局＝電0470(22)8271＝へ。

128高地の地下壕の内部。左に「戦闘指揮所」の額があり、左奥には天皇の写真を飾ったとみられるくぼみがある

本土決戦　1944年6月、サイパンなどマリアナ沖での惨敗で、日本は太平洋での制空・制海権を事実上失った。大本営は同年7月に、年末までに沿岸砲台や抵抗拠点となる陣地の建設をするよう命じた。千葉県九十九里町の片貝海岸から上陸する米軍を、同県の東金市や旭市飯岡などの丘陵地で迎え撃つ作戦だったといわれる。東京湾を一望できる鋸山（富津市、標高330㍍）を最後の抵抗陣地にするため、東京湾兵団を主軸に数万人の決戦部隊を配備していた。

文・木原育子／写真・由木直子
紙面構成・岡本恵里子

東京新聞 2022.6.1 付

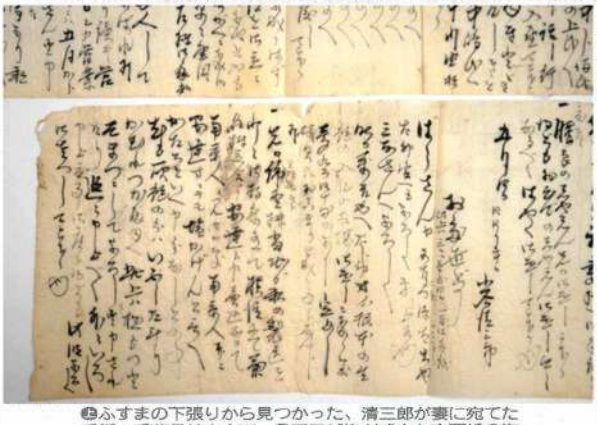
南房総から米カリフォルニア州へ 明治に太平洋渡ったアワビ食文化

「乾鮑」技術が橋渡し

千葉・南房総市の旧宅で手紙発見

小谷源之助・仲治郎 米国の漁に器械式潜水具導入

千葉県南房総市の旧宅のふすまの下張りから、明治期の房総半島から米カリフォルニア州にアワビの食文化を伝えた背景を示す手紙類が多数見つかり、調査が進んでいる。なぜ南房総から米国に伝わったのか。その背景には、中華料理の三大食材の一つで、中国への輸出品だった乾鮑（干しアワビ）にかかわる高い加工技術などがあったようだ。（山本哲正）



㊤ふすまの下張りから見つかった、清三郎が妻に宛てた手紙＝千葉県館山市で ㊦アワビ漁が盛んな南房総の海で、採ったアワビを手にする海女さん＝同県南房総市で

手紙類は数年前、現・南房総市白浜町出身の小谷仲治郎（一八七二～一九四三年）宅の解体を機に見つかった。仲治郎は兄・源之助（一八六七～一九三〇年）とともにカリフォルニア州に渡り、アワビ漁にヘルメット型の器械式潜水具を導入して成功。アワビステーキやアワビ缶詰など米国の食文化に影響を及ぼしたとされる。

二〇一九年二月、市民団体「房総アワビ移民研究所」（南房総市）と、NPO法人「安房文化遺産フォーラム」（館山市）が本格調査を開始。「手紙はちぎられて不要な紙とともに何層も張り合わせられていた。どうつながるか、パズルのようだった」（同研究所の粕谷智美さん）という作業を経て復元した約五百三十点の解読を進めてきた。

その中に、仲治郎の父で海産物問屋「金澤屋」を営んでいた小谷清三郎が妻に宛てた手紙があった。自作の乾鮑が横浜の中国人貿易商から「塩かげんと言へかたちといへ申分なし」と評価された、とある。ここから、高い加工技術があったことがうかがえる。実際、清三郎の商品は一八八三年の国内水産博覧会で表彰されていた。

小谷仲治郎＝安房文化遺産フォーラム提供

清三郎らは新潟県佐渡島や秋田県など各地で、アワビに関わる仕事や技術指導にも取り組んでいた。「源之輔（助）君にも佐土（渡）地において大勝利『単独にして遠征を試みるの勇気あるすら、実に感激之至」。清三郎の知人から送られた手紙は、源之助の活躍ぶりをたたえていた。

当時の農商務省水産調査所のアワビ研究に、小谷家が協力したことを示す手紙もあった。このころカリフォルニアに入植した日本人が現地で大量のアワビを見つけ、同省に漁の専門家の派遣を頼み、仲治郎らが渡米を促されたとされる。同フォーラムなどはこれらの手紙から「小谷兄弟が選ばれた背景に、アワビ漁を通じた深い関係や、加工技術と水産知識に対する信頼があった」とみている。

今回の調査に着手して間もない一九年九月、台風15号が房総半島を直撃し、史料を保管していた事務所が全壊。紙質や筆跡で分類していた手紙類が水没し、散逸する不運に見舞われた。回収後、かびなどを防ぐため冷凍保管したことなどから、調査を再開できたのは二〇年四月だった。

このほど中間まとめにこぎ着け、今年二月には米国の歴史学者や小谷兄弟の子孫らへの報告会をオンラインで開いた。同フォーラム共同代表の池田恵美子さんは「まだ分からないことも多いが、一歩進んだ。引き続き調査していきたい」と話している。

※東京新聞 WEB からも見られます。 https://www.tokyo-np.co.jp/article/180703

米国のアワビステーキに影響？ 南房総から明治期に渡米の漁師兄弟
旧宅ふすまから大量の史料発見

◆高い加工技術でアワビ食文化を伝える
◆ちぎれた手紙を復元 ◆先に入植した日本人が渡米促す

。

第 25 回 戦争遺跡保存全国シンポジウム広島大会

主催：戦争遺跡保存全国ネットワーク

【日程】 2022 年 8 月 20 日～22 日（土日月） 【会場】 広島市青少年センター

【参加費】 1 日：一般 1,000 円、学生・障がい者 500 円

【全体会・講演会】 8/20（土）

記念講演：原田浩 （平和記念資料館館長）
「ヒロシマの願いを世界へ－平和行政の歩み」
基調報告：菊池実 （戦争遺跡保存全国ネットワーク運営委員）
地域報告①：藤野次史 （広島大学名誉教授）
地域報告②：多賀俊介 （廣島・ヒロシマ・広島を歩いて考える会）

【分科会】 8/21（日）

・第 1 分科会「保存運動の現状と課題」
・第 2 分科会「調査の方法と整備技術」
・第 3 分科会「平和博物館と次世代への継承」

【現地見学会】 8/22（月）

A：旧被爆支廠と広島城周辺軍都遺跡を巡るコース
B：呉旧海軍地下工場等をめぐるコース
C：太田川上流の朝鮮人労働、強制連行中国人労働により建設されたダムと碑をめぐるコース
D：平和記念公園と周辺の被爆遺跡・碑をめぐるコース https://awa-ecom.jp/bunka-isan/section/network-60-25/

※ チラシ・詳細は HP より ⇒
NPO が参加費を補助します。